

2. 機関故障関連事故等の発生状況

事故等種類別及び原因機器別の発生状況

機関故障関連事故等が発生した 253 件（遊漁船 29 隻、漁船 224 隻）を事故等種類別に示すと、人の死傷や船体等の損傷を伴わない**運航不能（機関故障）が 87 件（34.4%）**となっており、この要因が衝突及び乗揚といった事故のなかにも含まれています。次いで、**火災が 57 件（22.5%）、浸水が 29 件（11.5%）、**運航不能（推進器絡索・絡網）が 18 件（7.1%）、運航不能（燃料等不足）が 13 件（5.1%）、乗揚が 12 件（4.7%）、沈没が 9 件（3.6%）等となっています。（図 1 参照）

また、機関故障関連事故等を故障又は不具合を生じた機器及び配管系統の原因機器別に分類すると、**電気系統が 50 件（19.8%）、主機・排気ガス系が 42 件（16.6%）、**続いて、プロペラ・軸系が 35 件（13.8%）、海水系が 21 件（8.3%）、潤滑油・ポンプ系が 19 件（7.5%）等となっています。（表 2 参照）

表 2 平成 27 年～平成 31/令和元年における機関故障関連事故等の発生状況（253 件）

原因機器 事故等種類		主機 排気ガス系	逆転減速機 クラッチ 軸継手	海水ポンプ	燃料油タンク 燃料油配管	燃料系 ポンプ こし器	潤滑油系 ポンプ	海水系	清水系	電気系統	船尾管	プロペラ 軸系	操舵装置	その他機器設備	原因不明	合計
事故	衝突		1		1				1	1		1				5
	乗揚		1		1	1				1		8				12
	沈没		1					1		1	1	1		4		9
	浸水	1					1	17			4	1		4	1	29
	転覆	3		1								3	1			8
	火災	5			1		1	1		38				1	10	57
	爆発													2	1	3
	死傷等		1													1
インシデント	運航不能 機関故障	31	10	7	3	3	17	2	3	7		3			1	87
	運航不能 燃料等不足				8	4				1						13
	運航不能 推進器絡索等											18				18
	運航不能 舵故障									1			2	3		6
	運航阻害	2		2		1										5
合計		42	14	10	14	9	19	21	4	50	5	35	3	14	13	253
%		16.6	5.5	4.0	5.5	3.6	7.5	8.3	1.6	19.8	2.0	13.8	1.2	5.5	5.1	

- ※ 1 「船舶事故」とは、船舶の運用に関連した船舶等の損傷や人の死傷等を伴うものを、「船舶インシデント」とは、船舶事故の兆候をい、本ダイジェストで船舶事故と船舶インシデントを合わせて「事故等」といいます。
- ※ 2 本ダイジェストの「機関故障関連事故等」では、機関、機器、電気関係、推進器及び操舵装置の故障及び不具合の事故等のほか、機関室に直接損傷を与えた機器及び設備の故障及び不具合を含めています。なお、操縦者による機関及び機器の誤操作は、除外しています。
- ※ 3 機関故障関連事故等のうち、複数の船舶が関与した事故等は、機関故障等が事故の発生に関与した船舶のみを計上しています。
- ※ 4 事故等の原因は、事故調査から得た事実情報を基に、推定したもの、考えられるもの及び可能性があるものを記載しています。
- ※ 5 本ダイジェストでは、読者に理解を深めていただくため、事故調査報告書の図表等を引用したほか、図等を加工したものを、記載内容を一部平易に記述したものがああります。